

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2670600200		
法人名	社会福祉法人 洛和福祉会		
事業所名	洛和グループホーム出町柳		
所在地	〒606-8204 京都市左京区田中下柳町18-1 常林寺		
自己評価作成日	平成23年8月10日	評価結果市町村受理日	平成23年12月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアグループと連絡をとり定期的に訪問して頂き催し物をさせていただいている ・近隣の施設(主に保育所)との交流
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2670600200&SCD=320&PCD=26
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成23年10月12日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>法人理念に基づいて作った「その人らしく地域と共に尊厳を持った生活」をホーム独自の理念として掲げています。今年度から法人全体で、グループホームの原点に戻った取り組みを行っており、その中で、ホーム理念に基づき細かい目標達成計画を立てています。3ヶ月に目標の達成状況を評価する中で職員の意識に変化が現れてきており、日々のケアにも活かされています。又、食事を楽しむ支援の中で利用者が職員と共に一品を調理から盛り付けまで行い、利用者に料理が出来上がる過程を見てもらう取り組みを行っています。ホーム周辺は緑が残り、近くに鴨川もあり、利用者は職員と日々散歩に出かけ、四季を感じながら気分転換を図っています。職員は、ホームの課題も自覚されており改善に向けて意欲的に取り組まれています。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念の実践に向けて目標、課題を設定しカンファレンス等で話あっている。	法人理念に基づいたホーム独自の理念を掲げています。グループホームの原点に戻る取り組みのとして職員間で話し合い、細かく目標を挙げ、3ヶ月毎に評価しています。研修やカンファレンスで話し合う中で職員の意識も高まりつつあり、理念の実践に向けて取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育所に訪問したりまた保育所からの来訪や教会のボランティアを受け入れている。また散歩や買い物の際近隣の方に挨拶し買い物や散髪など近隣の店を利用している。	日々の散歩で出会った近隣の方と会話や挨拶を交わしています。近隣幼稚園の運動会への参加や保育園児が敬老の日のプレゼントを届けてくれたり、保育園児と保護者が一緒に訪れ交流を持った際には、利用者が大変喜ばれ笑顔が見られています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学や問い合わせなどがあつた時に認知症について実践で得た経験をお話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度会議を開き意見交換、情報交換しサービスの向上に努めている。	運営推進会議は老人福祉委員や民生委員、地域包括支援センター職員などの参加を得て2ヶ月毎に開催し、ホームの現状や行事などの報告を行っています。また、会議録は家族に郵送し、全家族に参加の声掛けを行っています。	会議の活発な意見交換が行われるために、事前に議題を参加者に知らせて開催されてはいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	法人としてはできているがホームとしては消極的。	行政へは分からない事や疑問点などがあれば電話で問い合わせを行っています。行政から研修案内などが届いた際はできる限り参加するよう努めています。直接行き来することはありませんが、法人を通じて協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待マニュアルを作成している。また研修等によって周知徹底し身体拘束の意味を理解し実践している。	法人研修に参加しカンファレンスで理解できるよう伝達しています。常に身体拘束になっていないかを考え椅子の配置にまで気を付けています。玄関はセンサーで対応していますが、外出傾向のある方には見守りや一緒に出掛けるなど自由な生活を支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等の参加、カンファレンス等で周知徹底し充分理解でき防止できている。		

洛和グループホーム出町柳

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時重要事項を説明し理解を得た上で契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム玄関に苦情、ご意見箱を設置している。また契約書に苦情窓口を明記している。随時家族との情報交換により意見があればケアプランにも反映させている。	家族から意見や要望はあまり出ていませんが来訪時に積極的に声掛けを行い、家族の内にある意見や要望に耳を傾けるよう努めています。外出を望む声にはカンファレンスで話し合いケアプランや日々のケアに反映しています。又、家族アンケートを実施し意見を聞く機会となっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや個別ミーティングにて意見や提案を聞く機会を設けている。	毎月開催するカンファレンスで職員の意見を聞く機会を持っていますが、積極的な意見は出されていない状況です。人前で意見を出しにくい職員は管理者が1対1で個別にミーティングを行い意見を聞く機会を持っています。事故などが起きた際はすぐにミーティングを開催して意見を出し合い改善に繋げています。	会議は司会や記録を当番制にしたり、開催時間の工夫など職員が参加し易く、意見を出しやすくなるよう工夫されてはいかがでしょうか。また、議事録は会議時のやり取りが見えるよう記録の在り方を検討されてはいかがでしょうか。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアプラン作成時には必ず本人や家族の要望を確認している。本人については日常会話などから本人の希望を引き出せるよう実践している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用までに見学に来てもらったり相談員を交え話し合い(面接)をする機会を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談員と共に管理者が面接を行いニーズの把握に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員、利用者の隔てなく家庭的な雰囲気の中で暮らしていけるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族もスタッフの一員との意識にもとずいて随時ケアについて相談している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や家族の面会は定期的にあるが頻度は少ない。利用者から馴染みの場所への外出希望は殆どないが家族の支援で定期的に外泊したり同窓会などに参加される事はある。	近隣から入居された方は通い慣れた商店街などへ一緒に出掛けています。遠方の馴染みの場所への支援は家族に協力を依頼しています。今年度より、利用者の会話の中に出てくる馴染みや思い出の場所などへの個別支援の実現に向けて取り組んでいきたいと計画しており関係継続の為の支援を行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間で話ができるよう間を取り持ったり話やすい雰囲気作りを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居となった利用者や家族との関係が続いている例がない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式などを活用し個々のニーズの把握に努めている。確認が困難な方には生活暦や表情からニーズを考えるよう努めている。	センター方式を用いて家族などから様々な情報を収集し思いの把握に努めています。24時間ケア記録にケアの際に注意すべき事や日々の様子を詳細に記録に残しています。家族が訪問の際にも様子を伝えて利用者の情報を得るなど思いの把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの情報収集に努めセンター方式を活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方をよく観察し24時間シートに記入定期的にあセスメントしスタッフが本人の現状を把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人及び家族の希望を取り入れアセスメントを行いケアプランを作成している。実施後は定期的にモニタリング(状態が変化したときは随時)し再検討している。	利用者や家族の意向を踏まえ転倒時のリスク等を把握して介護計画を作成しています。3ヶ月毎にモニタリング評価を行い、変化が無ければ6ヶ月毎にカンファレンスを開催して意見を集約し見直しに繋げています。必要時には医師など専門職の意見も計画に反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は些細な言葉や行動も観察、記録し一日の流れや体調の変化がわかるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の要望を定期的にまた随時確認し要望に応じられるよう努めている。		

洛和グループホーム出町柳

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年に1度消防署の方に来ていただき防災訓練を行っている。随時ボランティアに来てもらったり近隣の施設(保育所)へ訪問したり地域の行事に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族からの希望を聞いたうえでかかりつけ医をきめ、月に2度往診に来ていただいている。医師とは24時間連絡体制があり対応できている。	これまでのかかりつけ医を継続できることを伝えています。かかりつけ医、協力医共に月2度の往診があり、その情報は往診時連絡票を用いて家族に電話やファックスなどで伝えています。協力医とは24時間の連絡体制が整っており、安心できる医療体制となっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度訪問看護師が健康管理にきている。その都度相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員と連絡をとり情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、かかりつけ医、相談員と相談し方針を決定し共有している。	家族の希望により現在看取りに近い方を支援しています。その時々に対応などを、家族や医師、看護師の協力の下、相談しながら取り組んでいます。職員の不安を払拭する為、方針を共有し常に相談できる体制を整えてチームケアに努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が普通救命講習を定期的受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の民生委員なども交えて防災訓練を定期的に行っている。	年2回消防署指導の下、防災訓練を実施し初期消火の方法などを実践しています。冬場は暖房にストーブを使用するため、ホーム独自に消火器の場所などを確認し合い職員の防火意識を高めるよう取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の誇りやプライバシーを損ねることの無いように接し、言葉かけにも注意している。	プライバシーや接遇に関する研修を実施しています。管理者は日頃から「利用者は年長者であり尊厳を持って丁寧に接するように」と伝えています。申し送りの際にもプライバシーに配慮し、また、トイレがリビングに近く、排泄時の匂いにも配慮した対応を行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段のコミュニケーションを通じて本人の思いを知るように心がけ利用者の意思を尊重するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常時本人の意思を確認したうえで支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理美容を利用したり美容室に出かけてその人らしいおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しく食事ができるよう準備から片付けまで利用者と一緒に取り組んでいる。	日々の献立は冷蔵庫を確認しながら利用者と一緒に立て、不足分は共に近所の商店街へ買い物へ行っています。準備から後片付けまで出来る事を一緒に行って貰うと共に、調理は利用者に盛り付けまでの出来上がる過程を思い出してもらい取り組みを行っています。職員は談笑しながらテーブルに着き楽しい食事時間となるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事はバランスのとれた献立に努め摂取量を記録し水分においてはチェックシートを用いて摂取量を把握している。また状態によって食事の形態を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的な歯科衛生士の来訪により指導を受け、毎日各利用者に応じた口腔ケアの支援をしている。		

洛和グループホーム出町柳

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の能力、性格を考慮し、その人にあった排泄の支援を行えるよう定期的に話しあっている。	夜間はパットを使用される方も、日中はトイレでの排泄を基本に支援しています。排泄チェック表を用いて時間を決めて声掛けや誘導を行っていますが、個々の水分の摂取量に配慮したり、サインを見逃さないように努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	かかりつけ医と相談し内服薬の調整や水分を多めに摂ってもらう、適度に運動してもらう等取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	最低週3回以上、希望時等はその都度入浴できるよう配慮している。	入浴は午後から夕方までの間で希望に応じて支援を行っており、入浴好きの方が多く毎日の入浴にも対応しています。希望により入浴剤を用いたり、季節のゆず湯を楽しむこともあります。利用者によっては職員が勤務調整などを行いながら同性介助で入浴を支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の日中の活動や睡眠パターンを記録し安眠や休息に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	勉強会等を通じて職員全体が各利用者の服薬において目的・副作用・用法・用量について理解しておりその上で利用者の状況に応じたコントロールを医師と相談し行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の背かつ歴、現在の能力や誠意各を勘案し負担とならず楽しんで行える役割をもってもらったり、楽しみをもってもらえるよう支援する。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望があれば随時外出の支援をしている。自分で希望できない方には体調、天候等を考慮し随意時誘うように配慮している。	日課となっているホーム周辺の散歩や、気分転換に近くの鴨川へ行ったり、商店街への買い物などに出かけています。桜や梅、紅葉、新緑など季節毎に出かけたり、祇園祭の際には鉾を見に出かけています。今後は公共交通機関を使って外出したり、個別の外出支援にも取り組んでいきたいと計画しています。	

洛和グループホーム出町柳

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に同行し一人一人の希望にに沿った買い物ができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話は希望があればその都度支援し、読むことが困難な利用者には代読している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファやベンチをいたるところに設置し思い思いに過ごせるよう工夫している。	リビングは全ての窓から庭の木々や緑が見え、四季を感じたり、窓を開けて風を感じてもらえるよう工夫しています。広い廊下は殺風景にならないよう工夫し、随所にソファを置き利用者の寛ぎのスペースとして利用されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	使い慣れた家具や食器を持ち込んでもらい使用してもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	要所への手すりの設置やトイレ、流し台等使いかっのよいよう工夫している。	利用者は家族の写真やタンス、テレビ、時計など使い慣れた品々を持ち込まれています。家族と相談しながら絨毯を替えたり、照明を低くして使い易くするなど、思い思いに安心して過ごせる居室となるよう工夫されています。全室和室となっていますが好みや習慣で布団を敷く方、ベッドで休まれる方など自由に選択されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している			